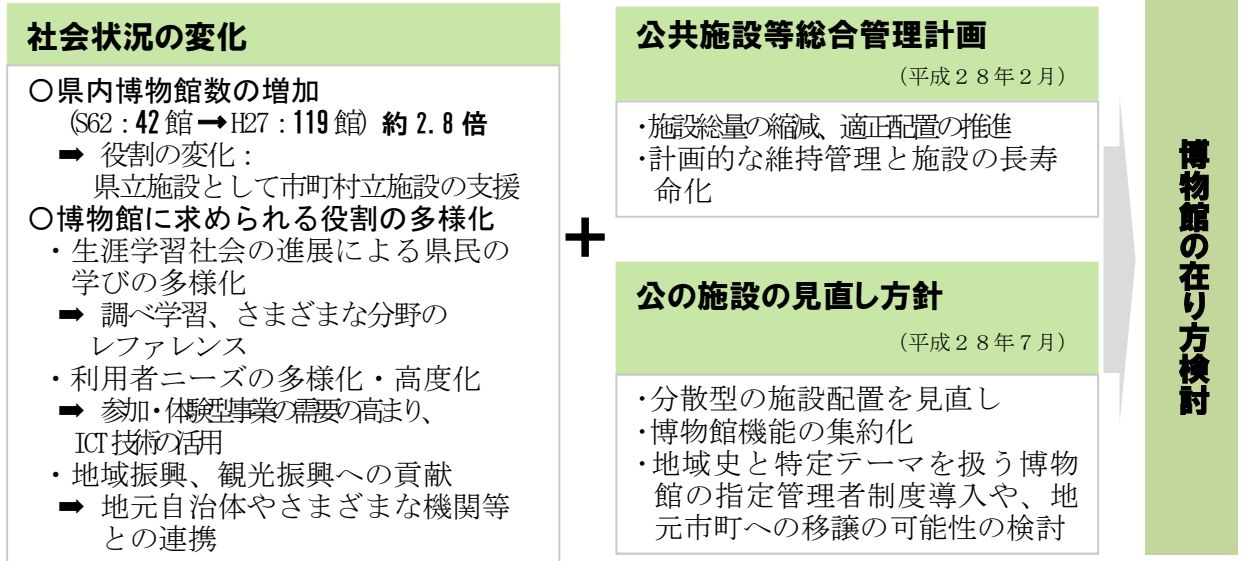


# 千葉県立博物館の今後の在り方 概要

## ■ 在り方検討の背景



## ■ 県立博物館をめぐる現状と課題、強化すべき機能

	調査・研究	資料の収集・保管	展示	教育・普及
現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域館では設置目的、専門性に基づく調査・研究。</li> <li>・ 中央博物館では科学研究費補助金を活用した研究。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 千葉県博物館協会の博物館資料救済ネットワークの拠点。</li> <li>・ 収蔵資料の自然資料が 87.3%、収蔵庫の狭隘化。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 入場者の多くは高齢者、若年層が少ない。</li> <li>・ 常設展示が未更新。</li> <li>・ 市町村立博物館への支援体制が未整備。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習キットや独自の学習プログラムを活用した学校教育支援。</li> <li>・ 立地する周辺の地域・観光振興との連携。</li> </ul>
課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専門職員の技術継承、後継者育成。</li> <li>・ 一層の研究成果の公開、県民へのわかりやすい還元。</li> <li>・ 県民参画の共同研究の充実。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収蔵スペースの確保。</li> <li>・ 地域の人文系資料の収集が不十分。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ あらゆる世代の利用者拡大。</li> <li>・ 常設展示の再構成と、ICT技術の導入。</li> <li>・ 市町村立博物館への安定的な支援・協力体制の整備。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員向けプログラムや、時事的話題に即応した情報提供。</li> <li>・ 連携・支援地域の全県的な広がり。</li> </ul>

## ■ これからの県立博物館

### ○ 県立博物館の役割

- ・ 全県域を俯瞰した資料収集・保管、調査・研究、教育・普及等を行う。
- ・ 県の魅力、県民の誇りとなるような文化・自然等の発信・紹介に努める。

### ○ 県立博物館の機能集約等

- ・ 効率的かつ高度化した博物館資料の一元管理を進める。
- ・ 地域史と特定テーマを扱う博物館は、長期的な視点で、地元での活用を含め、現状の県運営の在り方を見直す。

- ・以上を踏まえ、全県域を俯瞰する以下の博物館について機能強化を進める。
  - 中央博物館：専門職員と博物館資料を集約、常設展示のリニューアル、収蔵庫の充実、県直営の継続
  - 分館海の博物館：現在地で、県を取り巻く海に関する研究機能等を発揮するため県直営の継続
  - 房総のむら：指定管理者制度で運営する県立博物館として存続
  - 美術館：活性化を図りながら県立唯一の美術館として県直営の継続

## ■ 中央博物館への機能集約と強化について

### ①調査・学術研究

- ・専門職員の集約化による自然科学系、人文科学系及び両者を融合した学術研究。
- ・広域的なテーマ、又は県民参加・協働型の調査・研究。
- ・研究成果のわかりやすく迅速な公開・発信から新たな知の創造へ。

### ②資料の収集・保管

- ・自然科学、人文科学双方の研究に関連した資料の収集。
- ・資料の一元管理とデジタル化による文化資源情報充実。

### ③展示等

- ・人文科学系分野の充実と、自然科学系の優れた部分を生かしつつ、両者を合わせた総合展示室へリニューアル。
- ・ミュージアムショップとレストラン等の魅力アップ。
- ・「いつでも新しく楽しく学べる展示」と、県内外へのわかりやすく魅力的な展示と発信。

### ④教育・普及

- ・様々な年代の県民の学び・レファレンスへの迅速で充実した対応。
- ・県民ニーズに基づいた県の魅力、県民の誇りとなるテーマの講座等。

### ⑤支援

- ・県内の市町村立博物館等に対する調査・研究、資料活用、教育普及面での支援。
- ・博物館資料救済ネットワークにおけるセンター館としての情報収集・資料救済。
- ・大学、企業等を含めた幅広い連携・協力のもとでの支援。

## 中央博物館は「知の創造」拠点、県内の博物館活動の拠点としての役割を強化する。

「知の創造」とは、博物館資料の活用に加え、フィールドワークや実験等に基づく専門領域又は分野を横断した調査・研究等により、千葉県の自然、歴史、産業、文化等に関する新たな知見を生み出すことであり、その成果を広く公開・発信することで、さらに新たな知へとつなげていくものです。

## ■ 地域史と特定テーマを扱う博物館について

- 地元での利活用を優先させることとし、県による指定管理者制度は導入しない。

### (1) 中央博物館大利根分館（香取市）

- ・下半期を休館とする運営や、施設老朽化の状況、地元市での利活用の意向がないことから廃止もやむをえない。地元由来の博物館資料については、地元での活用について引き続き協議を進める。

### (2) 中央博物館大多喜城分館（大多喜町）

- ・地域振興、観光振興等の面でも活用できる可能性があり、地元町での活用に向けた協議を進める。耐震性に課題があるため、早期に結論を出す必要がある。

### (3) 関宿城博物館（野田市）

- ・地域振興、観光振興等の面でも活用できる可能性があり、地元市での活用に向けた協議を進める。

### (4) 現代産業科学館（市川市）

- ・地元市で活用したい意向があることから、中核部分について市が継承し、引き続き一般利用に供することを前提に、継承すべき内容や活用の方法等について協議を進める。